宵書
繪鈔
二十四孝
□9
4440

第一　大舜（たいしゆん）

しゆんは尭（げう）の位をうけて王位（わうゐ）に付給ふゆへ

第一におく　舜と申みかどの字を付て

いへるなり　此人せいぼんにて候しゆへ

かめなりとていふべはなみつくりたる時

いすゞ民みて田をつくりてぬかづく時は

のちは帝花といふひだりはふ孝の徳およ

うて尭また代位をうけつぎ給ひてそれより

後のはんをうきたつる民の力としてただ

舜と申す事しぞ家みて帝花といふをそ

いるき位ふのがりうすをとめて舜

とへやたらし位ふのがり舜さまとありける人

は三十三乃は年ありぱは時いいます民

おて一年より内のはかりなり

ふかうにいたつてがふにのがる

ひくくしてくるたがへすぶん

（えいて）ちまきをさまりとり

うらんてまんおとうぐめす

隊々耕春象　紛々耘草禽

嗣堯登宝位　孝感動天心

大舜（たいしゆん）はいたつて孝行（かうかう）なる人なり

隊々とは鳥のむらがりて

がり草いかり田をくさ

してやるなり

耕春とは二月の比田を

くかへしてゆくといふて

ぶく

紛々とは草のくさ

ぎるといふ　ふんくと

いふ物のたくさんなるす

しるがたくまてまて

ともし孝行のおとり

んへでちらいるるへ

まずが合力とするし

尭につかへておやふのがる

とい　尭王八人のけふ

わうまたぶれみてもかゝ

ひふて万民をめぐむべ

きんやえんくは位をゆづりたく

らんとしてめのいは人

孝行のまん下れくくれな

りんぐ王位をゆづりあふ

尭の世とつぎて位よのか

てあつく　おわしくへびつ

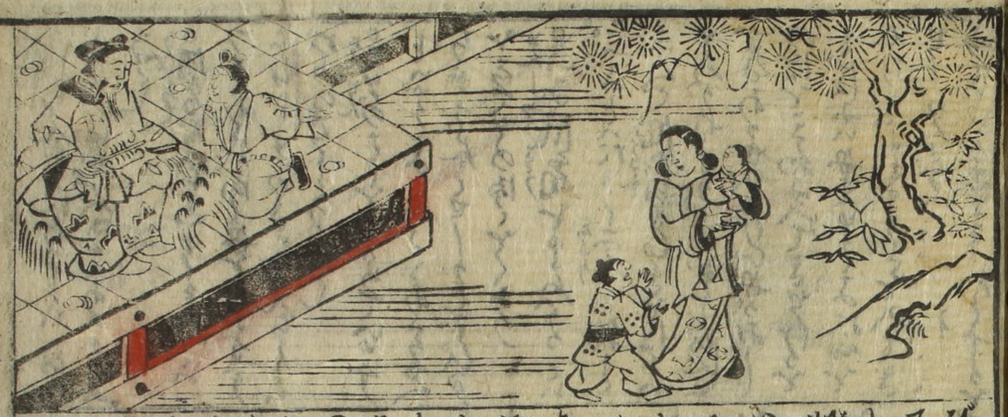
りう晩れ位とりつてし

孝行人まんざうぐなす

第二　漢文帝

仁孝徳天下　魏々冠百王
漢廷重賢母　湯茶必親嘗

漢乃文帝漢武帝の御母なり
御門のはゝなりけるを
とゞ頃とゝ仕き母君大后み
孝ありて朝夕食事をまい
らせらるゝ時も先こゝろ
ゝ先ゝこゝろをつくし
ずしてはすまじくけるこそ



第三　閔子騫

閔子性孝

閔氏有賢良　何曾怨後娘

閔子騫は魯の人なり。父の先妻の子なり。父の後妻に三子あり。閔子騫は母死して後父の後妻を迎へ三子を生む。父の後妻は閔子騫を憎みて冬は蘆の花を入れたる衣を着せ、三子は皆綿入れの衣を着せ、閔子騫は寒いとけをくして顫へ、父は三子のみを愛して閔子騫を憎みて、父は閔子騫を責めて、

曾参ハ山東兗州府
嘉祥縣の人也孔子の
門人也孝道を
尊び
孝経を
著す
曾参
母指終方喘
児心痛不禁
負杖而走
青肉至情深

老莱子いにしへ楚国の人
ありし父母の所にて
しつて年をすこしも
ろうどもいとろうの
賢者をどけせたる
じ人いまのうそ
今をれうきけ
男やく手をあ
つ

第五 老莱子

戯彩写嬉戯　春風動綵衣
双親用白髮　孝色満庭園
老莱子は二人の親に仕へ
そらくあり所もと老莱子
七十にして父母つくし
ぶるいけ
春風とはさいはひ
うくしくやさしく
いつくのるくだ
ぶるとそてそさしろう
ゆびとうみたり。号養山
ゆるるがみくうふひるさくれしけるど
ういそれはみうりそんど母たろう
るるとうりぱうみ指とうみあるがと
ときあへこてんそういぞんうくに
そて親子のみとけうれたるしみ。
おうしてる養のるいんりかいう
てんてこしれうとめてりたるこ
しうるべし
けくうい親孝なりまてぬぬしたゆんたたくう
くろんとうせのうくこ老子はゆくさゆんう

・孟宗は呉國の江夏
よりの宗のりくどくやく
文おやをうれて母に孝
行をしんし・晉の國
武帝につかへて・蹟
沈司馬よりまち池と
ありけるもい池・母も
行すくをうんし母も
賢くんし・孟宗池乃
うへとしをうてずに
をて母に方へをうり
かれて母のうへ
ちうしいをんぐ
とりてそこの
しとけれ
いのうへと
をうへしをく
ひをべし・
をれをうし
をあんをう

廿六 孟宗

泪滴朝風青竹枝　蕭々竹枝年
須臾春筍出　天子報年安

孟宗はいとまをくして父
にとくをふりれ母をや
うをり母を年をひてつ
やをいをり・食のあをうひ
もををうをれをしをた
物代のをうををををを
をうををけををををを

●雨とふくかぜきてすゞしむといハさく風とハ風のこと竹の葉のそよぐおともきこえ
むかひて竹林してあそぶ
●蕭々竹をとんよむ竹のこゑをいふや
ふくかぜにたつてのゝしる
●須臾ハしばらくのあひだといふ
へまづあらはれたしをかし竹のこ
うちへのぞてたくし笋
そうの竹みこいうてのちに筍
ゆきのふかくつもりたるを
ちへいたる
●天心へいおんをかへすと云ふ孝行をかんじてなり
●あるひハ笋ひらくひかり
雪すこしよき筍なる

これより孟宗母のなくなりてのちかなしくおもひ
て竹のはやしに行てなげきかなしむ小雪
命をしたれども竹のもとにて孝の心
ねがひをとりて母のこゝろをなぐさめんと地
うけてたちまちふかくつちの下に地
けんとう竹の子あまた出ければ
悦てとりてかへり母のために
母によろこびしたしませけるや
まことにふかき孝ゆへ天のめぐみなり
(大孝行のかんじて天よりあたへ給ふなり)

●かうかうする事ハ
ほ漢書にくはしく見えたり
江夏安陸といふところの
人なり老子荘子の
みちをよくあきらめて
びんぼうなれども
うきよのことをかへりみず
くらしけるが
文の妻をつくり
ありそむき門を和
帝とてかへりて
うしなひけり
かうへとたのみけり
るありけるをきゝて
ふかくかなしみけり
しずかにそのすへ
●冬月ふすまを衾といふ
なつ夏のさむしき
といふ事のさしと
きにハ父の枕をあふぎ
あつさをさけ
てまつりし

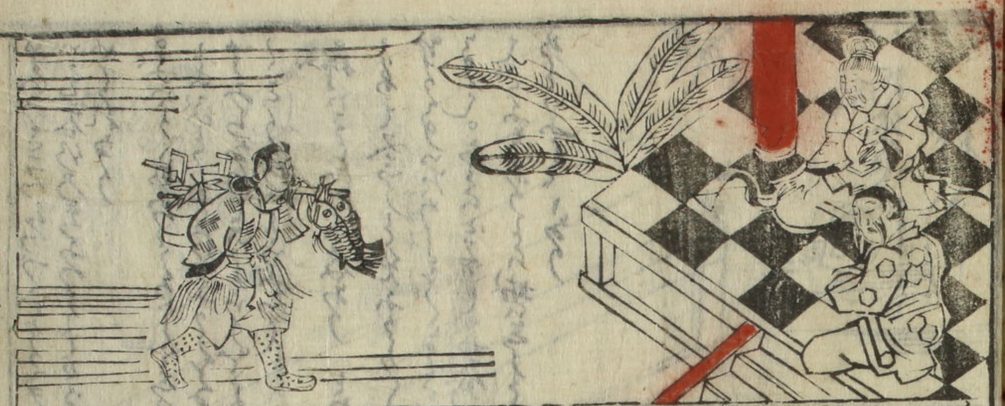
第十七　黄香

冬月温衾煖　夏天扇枕涼
児童知子職　千古一黄香

黄香はかんのよの人なり
ところの人なり九さいの
とし母にをくれ父をよくや
しなひてつねにかうを
つくしけるをみなほめけり
ばなつのころはあつさにてあつき
枕やゆかをあふぎてすゞしく
さむき冬はふしどのさむきを

第八　幸永

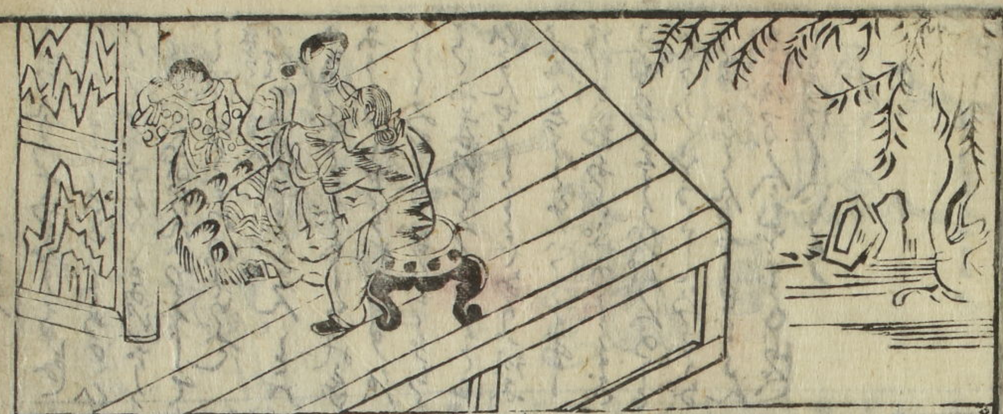
弄文貸方兄　天姫酒上逝
織絹債主　友感盞知名



第九　姜汚

舍例年泉出　一朝双鯉臭
手能知事毎　婦史孝於姑

姜汚は毋に孝行なる人なり
つねつのふるかの水とのこた
くはひとしなれども
おのずからひそかくなる
つね姜汚書こいひ付
てたたつとみちとへそて
そころかのそくもせず



唐夫人

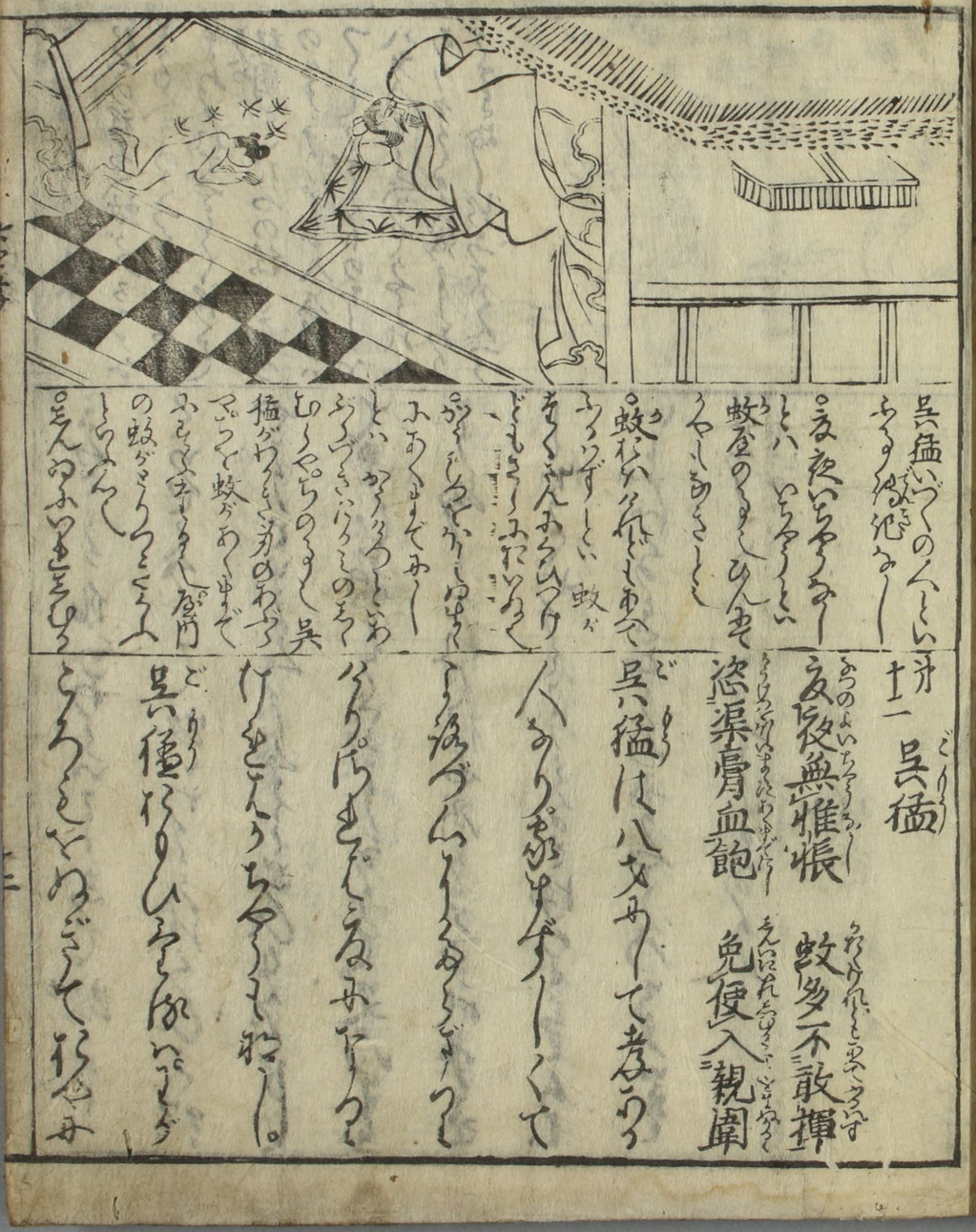
孝敬崔氏婦　乳姑晨温凊
世息云い報　頤得子孫如

唐夫人崔氏は唐の侍郎の
女人年十四にして万食の
くらいをうけ世ゆくり姑に
とゆくめ武いあさごろ姑
のうみ給ひてのんどくしに
ぐ孝をつくせしなり。
武内姑をうしひつくして

廿十一　蔡順

黒穂奉親圖　啼飢淚滿衣

赤眉知孝順　牛米給若敵



十二　呉猛

夜無帷帳　蚊多不敢揮
恣渠膏血飽　免使入親闈

呉猛は八才にして孝ありて
人ありて蚊多くして
帷帳を揮ふ能はず
こゝろゆくまで
人の血を飽かしめて
親の闈に入らしめざるべし
呉猛行ひ
ひとへに

十二 郭巨

貧乏ゆえ供給 埋児釜母存

黄金天形瑞 光彩照寒門

郭巨いかゆゑ子をうしなくて
母ばかりをひろひ給ふ三さ
いの子をすてらるゝぞ
郭巨が母ごとう
たゞかつて我食をとりけて
わかくをうつなをうしなさ
郭巨つゝしみかくのごとし

十二 朱寿昌

七歳生離母　奏高五十年
一朝相見面　孝気動皇天

又云母とさりぬるに七人子ありけるを
もつてのほかしげくなりぬるを又
十年ばかりとなげきわびぬるを
朱寿昌とぞいひける

一曾参ハ二十一才にて母ずゐぶんをたつしし
七十代の時又わすれがたく思ひしゆへに
ゆきかへりもとむるなく
曾参高五十年とハ今人曽子
といふなりぞや中ごろむかし
あり此ハ出しる年をさと
てあ十年のみなかり
一はれにむかしをあひらるとハ
ありしにやかりあひたし
けんありり
一孝の気ちをてんとうがうす
とハながひよろこびて
ずゐぶんにうらしきびて
地のたからをもちたるゆへ
おそこといふなり

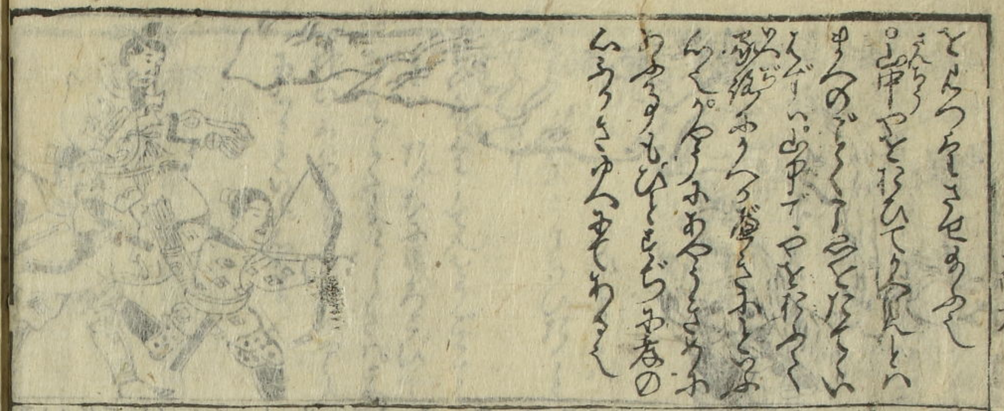
とつくでしもの因縁とはすくなからし
故しきをぞんじいやしきへをかろ
うりゆくべきにしく母ありなつんぞ
あへしてまうしける方にかりしくじ
て縫をとりくえんにかけりし
かしこまり候とて此ゆゑをもつて
つねにすりかひをかうりともをやさし花
こころにまうしる不孝のゆゑにこそなれ

剡子ハ周の時代の人にて二親に孝をつくせし人也
老親ともに目をわづらひ
しかれ老の身なれバ
めのわづらひもいかゞならん
とおもひて
もつてしかるべき
ものなし
ある時いはく
とくとめ
とかくうちの
くれ候の中へ
れ入てもとめん
くるしみて
つねに老の
人なれど
そのしたがひ
かずかずの
とやかくも
うるさく
みな孝のしん
てんしよりん

十五　剡子

老親思鹿乳　身挂褐毛衣
若不高声語　山中帯箭帰

剡子ハおやのため命を
すてんとおもひしに
ちゝはゝ老て両眼を
わづらひしが鹿の薬ありとて
鹿の乳をのぞみけり。剡子
孝ある者なれば親のこのむを
竹へゆく鹿のかはをきて



十六　庾黔婁

到縣未旬日　椿庭壊殘水
形枯身代死　北堂啓憂心

庾黔婁いまだ官にのぼらざるに、人ありて彭澤縣令にすすめ、ころ乃官人にうりて、別駕を以て、いまだ十日もあらざるに、あるひとの、さつぐ事ありとて、ひとりの人、ものもとめ、さつぐ事ありとて、ひとりの人、ものもとめ、

十七　山谷

貴殺史天下　平生孝事親
汲泉消溺熱　姙妾豈無人

山谷宋の世の人なり。
いまだ子なくして妾の
ありしを
去沢師とつくるべし
乃天の使とおもひ
てぞうけいれぬ

つひものしるさしいふ
事なおなじしもておろ
らうやうりせらるすれ
にりいかさ孝乃みぐし
孫乃みちをたりすゝん
おもふをやの事いは
さたりのちかさなん
ぞしし孫りうかとうそ
此人のとさそおとなん
らへんじるとをしう
かくあり

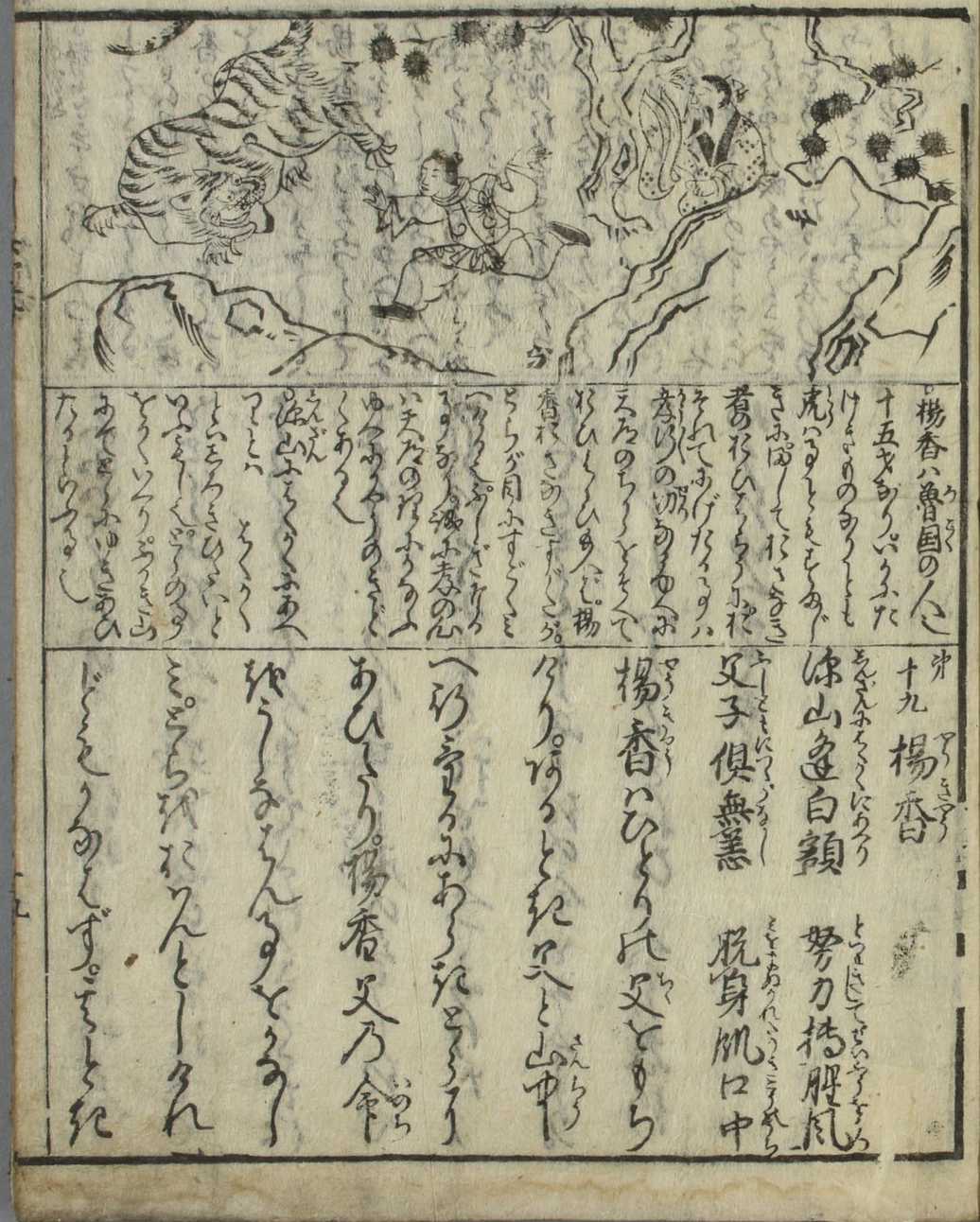
あるしこれハこれをあはれひしおほきみゆふ
あらしろくつくし孝をつくしそれぞる
ろす孫はめぐしつとをうく親をとる
しうやそのほか乃孝行しなる
れそうさよくおこなふうくれたくん
じるにつくしわ詩は山谷といふ事
うみせつそうり世にかくしるすへし

王裒ハ晉代國の人也
魏のときに父をころされしを
うらみてつくへんとせず
してありしと也
ひんかにありけるか
さうして世をそむきか
つらしかさらぬかくれ
ゆうりかくすがた
墓のほとりにいつ
ずして父の王儀のつ
もつてみゆる
帝にころされしを
こゝにてかくれそう
そのゆゑに文帝のわ
うかたをむきて
とをしてそのわけ
をあかしつくりて
はらふる事
○慈母ハらいをおそれ
るとかや母の
いかづちの鳴ときハ
墓にいたりて母のた
めにいかりなくさ
め申けるとなり

十八 王裒

慈母怕聞雷　冰魂宿夜臺
阿香時一震　到墓遶千廻

王裒ハ魏の人也
父乃かうかう(?)ぎ(?)
乃まゝりすりて門を
つと涙をたれて
おもひ申ほどそのそ
一念の母をわすれひ
てさきもせざりしなり。



○楊香八魯国の人
十五ヤ有りしが虎に
ふたりの男ありて
虎に向ひて打さふ
者の打ひとりの男
それてあげたくら
孝行の心あり
えたのちくとそて
打ひしくひ人じ楊
香れさのきすじ
とらぐ月ふすぐ
いくぐさ
るのふ孝の心
いえたのたふ
ゆつゆのの
くあく
えん
法山ふとくふ
てとハ
といとろくひ
いつとくく
とくいりぐ
みそとふゆき
たくいりて

十九 楊香

法山逢白額　勢力抜群

又子俱無恙　脱身虎口中

楊香いひとり氏又てもら
ゆ
ゆ
ひとり楊香又乃命
法ふとくふ
とくく
とくいりぐ
みそとふゆき
たくいりて

○努力(どりよく)とてせいの風をちからとし
しつかとくらいつきたる
てうせん風といふものゝすに楊
香がいのちをたすけたる
をいふなり
○父子(ふし)ともにいのちをたすかる事
楊香が孝行ゆへに父もいのちたすかる
くわくしよもいふんしんのふしぎ
ものなりしよくのこゝろゆへ放
るゝとゆふがきりなり
○脱(まぬかれ)る虎(とら)の口をいふ
とらのくちにいれてしぬべきを
ちからなき女のしかもおさなき
とらをおどろかしてにげさらしむ
そのいのちたすかりしは ふしぎ
こゝろざしのふかきがゆへ
つぎに天のあはれみにて
ちゝをたすけたるは孝行の
ふかきこゝろざしのゆへ
すくはれたり

天もあはれみのこゝろにや。猛かりつる命
をたすけ給ひて父もともに家へかへり
そのうへ今までいけさかりたるに
てきらうらんとせし虎のちからもなえや
わうぎやくぶしふれどもすべてにげたり。
これやこゝろざしのふかき命をかへすなり。
家路にかへりてまことにひとへに孝行
ゆへなりとぞあり

○張孝張礼ハ兄弟(きやうだい)の二人也
まづしうして母をやしな
ひけるなり
○偶(たまたま)ハたまさかといふ心也
おもふにぬすびとも
緑林の中にかくれし事
ぬすびとのことなり
つまり林といふをかり
のちにしての児とかくゆへ
にぬすびとの児といふなり
とらへて字(じ)ハ兄弟が
○代(かはつて)烹(にらるゝ)をいひて
まづ兄がわれをにてくふべし
われはやせたりとて兄弟
ともにしたがひけるに
ぬすびとそのこゝろざしを
かんじてゆるしけり
ぞくもそのまことにかんじて
ころさずして兄弟を
ゆるしけるとなり
○人皆(みな)兄弟はあり
とも人ハいたらぬ也

二十　張孝張礼

偶(たまたま)値(あふ)緑林(りよくりん)の児(じ)に　代(かはつて)烹(にらるゝ)ことを云(いふ)瘦肥(さうひ)
人(ひと)皆(みな)有(あり)兄弟(けいてい)　張氏(ちやうし)古今(こきん)稀(まれなり)

張孝(ちやうかう)張礼(ちやうれい)ハ兄弟(きやうだい)なり。世(せ)
間(けん)きゝんなりし。八十
にあまれる母を養へり。
木の実(み)をひろひにゆきしに
あるとき張礼ひとりのぞくにあひ
こびとる者(もの)ありて張
礼をとらへてくらはんとす

ふきやうだいのうちハわるくじ
ほう切歎ハ節きしらずありし
。張氏ハ人またありとも
ちやくしとハ張氏といふ事也
はさるだいのゆうぢうなりふ
しんやもりの世かしまかぬふ
てあかりびひまをしもはかす
あり。ばはのごとく也。ちところ
しそくりんくらんなどなる
ふとうぬやうひとものいところ
とりんじんぶくつく第二十八張
をやうけるあり。孫のへんざし
ふうきもへあり

張孔ハ兄弟はりて、母を持てり。されバ一とせく
合をさかひせバぜに。ぢいらハ他を殺も母ハ不合
とわるくて家かんにハ物米なりぐて母ふ来てころ
しまへといひてくる。母ハ合をすゝめて物米
のごとくは弟兄の下へゆくらりぼんの張孝己法
けて、又弟を終て又母ハ張孔ゆるさんやう
行ふ合はすなふまりけれ。旦に殺して張孔をむ
すさよとぞなり。又張孔ハ初め家に物米として
死を評ゆり彼ハ各々ハ孝行をうんしてし。
第二十八張孝張孔の徒なりも

。海底ハ志さんごといふ
ばいかいまいての
ことしむかしは
さんごといひうらまき
はさんでおきしびきの
そこにのこさんごおや
れでくろうくしく。
そなうてさく海の
枝のるすとおかそう
やうりひたるをし
。群芳まべてまず
といふえわうしい
咲きがさまりとうえく
ていうりぬずういは
本とさうんとなるまで
きくてうまてるとるんる
ばはうもまなれてわやの
おもとわるんとうよ
るすバはうへ本ちいれと
てならそうとい三う
をうるまるとりつし
。春風花えごみでる
とは　ほあやいさる
せいしまいしひる

第二十一　田真　田廣　田慶

海底已無珊瑚　群芳總不如
春風花滿樹　兄弟復同居

此三人ハ兄弟なるも父りにて
くまそ後に父乃戦実て
そうかもうらくなりかる。
庭ありさうのの樹とて枝え
ほくぽくみも咲そろうま
一本きけりて兆もこもふ
きけてらべしくして三人

れたりしてある木の所ゟ風
ふきよりきて時をえたる
ごとく花さきさかへて
えだはみなもとのごとくしげりてさかんなり
しげりてもとのごとくなりにき
このよしをきゝて兄弟三人
ふしぎにおもひ又もとのごとく
むつまじくなりけり
三人ハもとのことくなりて
ひとつにすみけるとなり
兄弟三人ハもとのごとく一所にすみ
れたるさへ木のえだもさかへけれと
ものハ一本のえだもみなかれ
あだ人のこゝろハ三本ともに
とすなりけり又兄弟の心
ひとつになりて花さきさかへける
ちそみてさかんなり三人一所にて
いとむつまじく兄弟の中よく
たがひに孝行ありけり

せんだんきれたる木の所ゟふかれたり。野えん
えだもみな草木もさかへてさかりにもえ
とのこる兄弟てうれしくおもひてもと
のごとくすみけるとなり
くだんのごとくなりて兄弟ハ心をあはせ
ハ又二本のごとく成けるなり。
兄弟孝行をしあはれども、然れバ紫荊の木
もさかへけれバ、又紫荊とともに
ず。三人あはれみあひてむつまじく
紫荊の花までとせいとくあらハしけり。紫荊
の名をあらはし孝行の第一とかや

王祥ハ魏の世の人なり。孝行成
人なり
○継母ハまゝはゝなり。
といふ也。
老いたる人にも中よく
あはれにおもひけるとなり
○王祥天下に無し
とは、まことの子と
くらべてもわたくしなし
ほめたるなり
おやにも孝をつくし
王祥がまなびたるこ
母にいとけなくして
いまだいとけなくし
○河水とハ川の水
なり。ひとへに
うすくこほりて
母にあたへ
よろこびたりし

第十二 王祥

継母人間有　王祥天下無
至今河水上　一片臥氷模

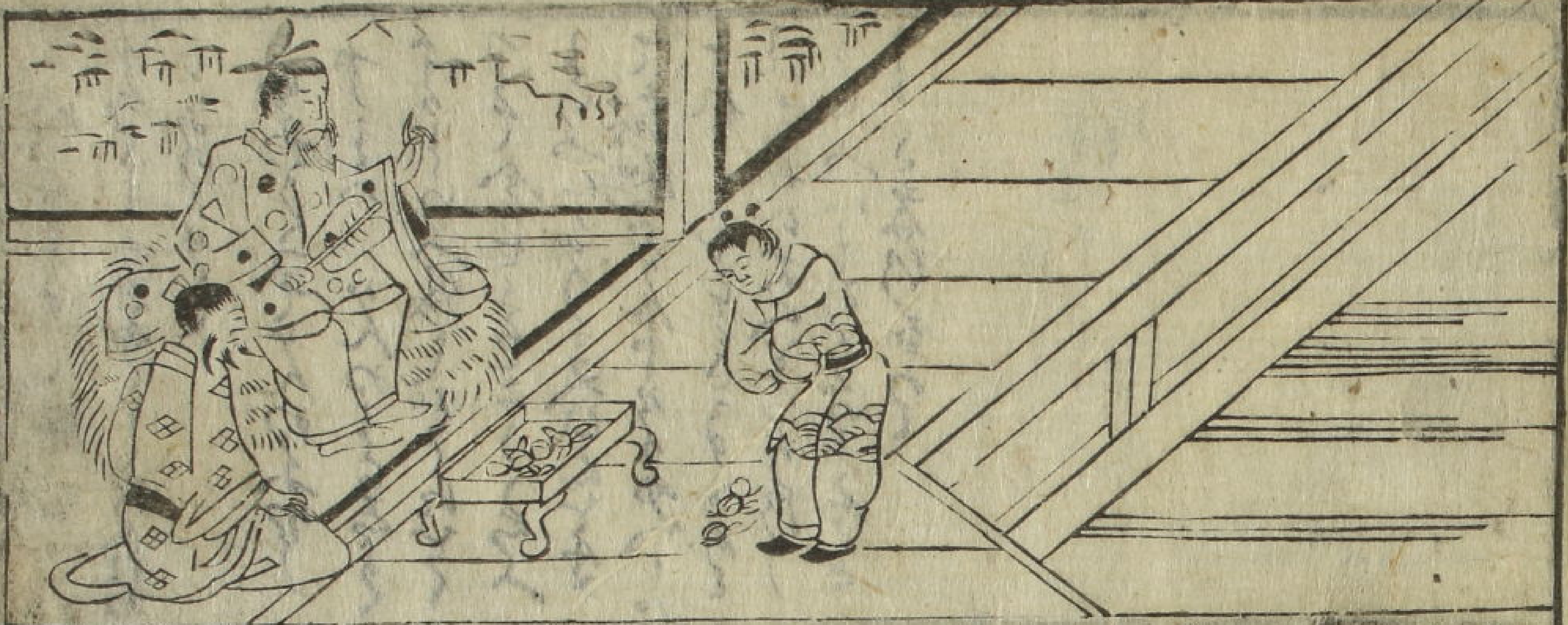
王祥いとけなくして母にをくれり。父又つま
をもとめけり。そのなを朱氏といへり。まゝ
はゝのならひとして、いかなる事もなく
父子の中をあしくいひなして
ざんげんをいたせども、うらみとせずして
ますますけうかうをつくしける

二十三　丁蘭

刻木為母　形容在日似
孝言法子姪　少早亡其親
丁蘭住河内野　ついとろうれ人なり。十
ふれとし母ゆくをそ
つぐのれとうやしみく母の
うちとを木像ゆつくつて
朝夕つきそうとおもひ
とくゆつくをうつ。

孝のしんぬきんでゝ。きん
みて母のごとくつかへけるに
てるぐらふれざりし。わがめ
まけのんござりかつきさんを
みつのひてもてたゝ母のごとく
しねぶもくをご云々つかへて
ろくしう宮ゆふしきさをする
みゝとんぞろ丸中しろき出
あさりするり公きあるきた
るとしく以しとうりとげてい
ぬよく孝行とつくまさき
ありけり

或(わう)しき丁蘭(ていらん)がつま火(ひ)をもつてすこしく
木像(もくざう)のおもてをこがしければ。そうさ
れでくみそれ出そうちさがれて二日
をへてそのつら妻(つま)乃頭(かしら)のかみがおちてそ
ろうくうるゆうふゆりかるを。捉(そ)い木像(もくざう)のこ
がれぬてしを木像をねんごくにしてきまゐ
みつ三年(ねん)経(へ)ぬ。びやうをさせそれたゞ秋風(あきかぜ)吹雨(ふきあめ)ふりて
木像がやうく因(ちなみ)に後(のち)なり。それから(?)はまたも一木像(いつさう)を
うちつくりかやうに婦(よめ)し此のりゆゑにぞ孝
行のふかしゆゑ此ゆゑなりけるなり



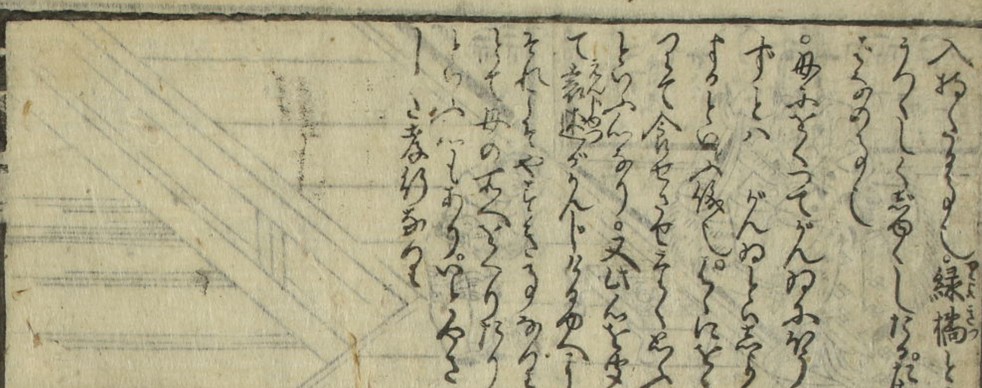
りくせきは呉(ご)の国(くに)の
人にして六才にして
孝をつくせし
人なり
○孝悌(かうてい)皆天性(みなてんせい)
とは。かうていといふは孝
をいふとつうじて天
せいといふは六才
にもせいじんのごとく
に生れつきたる
うまれつきのこゝ
ろにてうけたる
ところよりでたるゆへ
かくいへり
○人間(にんげん)六才(ろくさい)の児(じ)
ろくさいのちごといふ
事。人のうまれ六才あとより
ていねんぶのちがひさる
いはずなりとし
○袖中(しうちう)りよくきつを
いだくとは。袖の中
ふところの袖

第二十四 陸績(りくせき)

孝悌皆天性(かうていみなてんせい)　人間六歳児(にんげんろくさいのじ)
袖中懐緑橘(しうちうにりよくきつをいだく)　遺母報含飴(はゝにのこしてがんいにほうず)

りくせきは六歳(さい)のとき
袁術(ゑんじゆつ)といふ人のところへ
ゆきしに菓子(くわし)に橘(たちばな)を出
せりつくせきこれを二つ
とりて袖(そで)のうちに入てかへり
さまに袁術(ゑんじゆつ)にいとま
ごひするとて。ぬかをしく

入わらうもし。緑橋とハ
うくしくもくしたぷら
ぐのうり。
。母ふとくてんのふり
ずとハ　ぐんわしらもく
まるとの八後しぷらにく
つて合せらせるくらも
とらハんのり。又ぜんを
て読ぬぐんドりるもう。
それしもやらもるすあを
まそ母の丈ぐとりたり
とのハ八しありぷをも
ー。と春行あり。



つれとしくりう。義述えとんてぷる
あるを人りあらもくしりこいを
生でぷつくされりありたりふんで
とみいりぐ。母あるくんるんなる
とりひいりう。義述えとをあられ
ぐりあれりれまんぷ古今まるを
とにをんまりそれを考行せとり
りるをりくぷりドる民りんじけし

天和二年壬戌初春吉日
萬屋
庄兵衛板行